

## 名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

### (1) トンボ目・チョウ目（チョウ類）

内 藤 通 孝\*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya IV. Others

(1) Odonata and Lepidoptera (Butterflies)

Michitaka NAITO

#### はじめに

「名古屋東山周辺の昆虫相」連載で、甲虫目とカメムシ（半翅）目をまとめた。今回はトンボ目とチョウ目（チョウ類）を取り上げる。これらは系統的に観察・採集してきたわけではないので、観察の機会は多分に偶然に左右されており、網羅的な記録ではない。しかし、両者ともに生息環境の激変のため、多くの種の存続が危ぶまれているので、この場に記録を留める価値があると考ええる。

#### 観察記録

分類・学名・和名は、トンボ目は文献1)、チョウ目は文献2) に依った。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数、性（雌雄を鑑別した場合のみ♂、♀の記号を入れた）、採集（観察）年月日（古い記録は年月のみのものもある）、観察場所（名古屋市を省略）の順に記した。観察年月日は8桁（年月のみの場合は6桁）で示した。

例：「1 ex 19970608 昭和区八事本町興正寺」であれば、1例（雌雄区別せず）で、1997年6月8日に名古屋市昭和区八事本町の興正寺境内で採集したことを示している。同じ観察地が続く場合には、「同地」とした。

個体の大きさの表示法は種々あるが、トンボ目は全長で、チョウ目は前翅長で示した。標本が存在する種は実測値を示し、観察・写真撮影のみの種は、トンボ目については文献1)、チョウ目については文献3) の値を示した。名古屋市・愛知県の分布については『愛知県の昆虫(上)<sup>4)</sup>・(下)<sup>5)</sup>』を、日本・世界については文献1, 2) を参考にした。日本国内に

---

\* 生活科学部 管理栄養学科

ついで、北海道・本州・四国・九州に分布するものは「日本」とし、島嶼は省略した。文献4, 5) に名古屋市からの記録がない種の学名には\*を付した。

## I トンボ目(蜻蛉目) Order Odonata

古代には、とんぼのことを秋津と呼び、日本の国を秋津洲と言った。田圃の上空をとんぼ(とくに赤とんぼ)が行き交うのが日本の原風景だったのだろう。しかし、とんぼを取り巻く環境は大きく変わりつつある。

『愛知県の昆虫(上)』(1990年刊行)では、愛知県には93種のトンボが記録されている。このうち名古屋市の記録があるものは86種である。トンボは愛好者が多いので、この報告書の中でも蝶とともに最も詳細に調査されている分類群である。調査年代は概ね1940～1980年代で、数十年前には名古屋市内においても多様なトンボが生息していたことがわかる。約30年前に刊行された『愛知県の昆虫(上)』と『なごやの昆虫』<sup>6)</sup>(1989年)では、愛知県や名古屋市におけるトンボの全般的な減少が指摘あるいは危惧されている。トンボの減少には多くの要因が関与していると考えられるが、主な原因は、①「開発」による自然破壊、②水質汚濁、③河川・池の「護岸」であろう。

### 1 アオイトトンボ科 Family Lestidae

「青・糸蜻蛉」である。イトトンボは、身体の細長いトンボで、アオイトトンボ科とイトトンボ科がある。

#### 1-1 ホソミオツネントンボ *Indolestes peregrinus*

観察・写真撮影：1♂ 20150502 千種区東山植物園(写真1-1。加賀谷みえ子撮影)

全長♂35～42 mm, ♀33～41 mm。細身<sup>おつみん</sup>越冬トンボである。6～8月に羽化し、名前の通り「細身」で、かつ成虫で越冬する。♂は越冬後に鮮やかな淡青色に変色する(写真は越冬後の♂)。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、中国

#### 1-2 オオアオイトトンボ *Lestes temporalis*

標本：20140911 千種区平和公園(全長43 mm)(写真1-2A, 1-2B：頭部・胸部)

大・青糸トンボで、大きい青イトトンボである(アオイトトンボという別種がいる)。分布：日本、朝鮮半島、極東ロシア

### 2 カワトンボ科 Family Calopterygidae

河(川)トンボで、名のごとく、河川に生息している。

#### 2-1 ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata*

観察・写真撮影：1♂ 20080811 名東区藤巻町(写真2-1A)；1♂ 20140717 名東区藤巻町

標本：19920817 西区庄内通(全長56 mm)(写真2-1B)

羽黒トンボである。名前のごとく、前翅・後翅ともに黒色である。分布：本州・四国・

九州, 朝鮮半島, 中国, ロシア

### 3 イトトンボ科 Family Coenagrionidae

#### 3-1 キイトトンボ *Ceriagrion melanurum*

標本: 1♂ 20190806 千種区平和公園 (全長40 mm) (写真3-1A, 3-1B: 頭部・胸部)  
黄イトトンボである。分布: 本州・四国・九州, 朝鮮半島, 中国

#### 3-2 クロイトトンボ *Paracercion calamorum*

観察・写真撮影: 1♂ 20160807 名東区猪高緑地 (写真3-2A); 1♂ (未成熟)  
20170430 天白区天白公園 (写真3-2B)  
全長♂27~36 mm, ♀29~38 mm。分布: 日本, 朝鮮半島, 中国, 極東ロシア

#### 3-3 アジアイトトンボ *Ischnura asiatica*

標本: 1♀ 20170826 名東区藤巻町 (写真3-3A, 3-3B: 頭・胸部); 1♀ 20181020  
名東区猪高緑地 (全長25~26 mm)  
分布: 日本, 朝鮮半島, 台湾, 中国, 極東ロシア

### 4 ヤンマ科 Family Aeshnidae

「蜻蛉<sup>やんま</sup>」とは, 一般に大型のトンボを意味する俗称から来ている。

#### 4-1 マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini*

標本: 1 ex 20100808 昭和区滝川町 (死骸) (写真4-1A, 4-1B: 胸部)  
全長♂65~81 mm, ♀72~84 mm。和名のマルタン, 学名の *martini* は, フランスの昆虫学者 R. Martin に因む。分布: 本州・四国・九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国, 東南アジア, インド

#### 4-2 ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera*

標本: 1 ex 20030711 千種区星が丘元町 (死骸) (写真4-2A, 4-2B: 側面・胸部);  
1 ex 20050628 名東区藤巻町 (死骸) (写真4-2C, 4-2D: 側面・胸部) (全長80~85 mm)  
藪ヤンマの名の通り, 丘陵地や低山地の林内に生息する。分布: 本州・四国・九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国

#### 4-3 ギンヤンマ *Anax parthenope*

標本: 1 ex 20140824 昭和区滝川町 (死骸) (写真4-3)  
全長♂67~83 mm, ♀65~84 mm。物的証拠は, 不完全な死骸標本のみであるが, 東山動植物園周辺で観察される。

### 5 サナエトンボ科 Family Gomphidae

早苗トンボ科である。早苗は, 苗代から田へ移植する稲の若苗のことで, 春4月頃から出現する種が多いことに由来する。

5-1 オグマサナエ *Trigomphus ogumai*

観察・写真撮影：1♂ 20160429 愛知県長久手市茨ヶ廻間乙愛・地球博記念公園（写真5-1A, 5-1B：頭胸部と尾部の拡大。加賀谷みえ子撮影）

全長47～52 mm。和名のオグマ、学名の *ogumai* は、昆虫学者、小<sup>まもる</sup>熊 捍（1885～1971）に因む。名古屋市の東側に隣接する長久手市での記録であるが、本種は愛知県のみならず全国的に生息地の縮小、個体数の減少が著しく、「環境省レッドリスト2020」<sup>7)</sup>の準絶滅危惧（NT）種に指定されている。1970年頃までは名古屋市内での採集記録がある<sup>4)</sup>。分布：本州・四国・九州。日本特産種で、石川県・長野県（最近の記録はない）・愛知県以西に分布する<sup>1)</sup>。

6 オニヤンマ科 Family Cordulegastridae

6-1 オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*

観察・写真撮影：1♂ 20210715 名東区藤巻町（写真6-1A, B）

標本：1 ex 19910822 昭和区滝川町；1♂ 19940903 昭和区滝川町（内藤孝二郎採集）（全長90 mm）

鬼ヤンマの名に違わず、日本に生息するトンボで最大の種である。学名の *sieboldii* は、ドイツの博物学者シーボルト（Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796～1866）に因む。分布：日本、朝鮮半島、中国、ロシア

7 ヤマトンボ科 Family Macromiidae

7-1 オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans*

標本：1 ex 20200728 千種区不老町（写真7-1A, 7-1B：側面・頭部・胸部）（全長85 mm）

大・山トンボであるが、山地のみでなく、平地にも生息する。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国、極東ロシア、フィリピン

8 トンボ科 Family Libellulidae

8-1 コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*

標本：1 ex 19910811 昭和区滝川町；19920731 瑞穂区春山町（死骸）；1♂ 20210804 千種区星が丘元町（死骸）（写真8-1A, 8-1B：側面・頭部）（全長43～46 mm）

腰空トンボで、黒色の腹部の中間（第3・4節）に白斑があることに由来する。未成熟な個体では黄色であるが、成熟するにつれて白化する。写真の♂は未成熟である。子供の頃は「デンキトンボ」と言っていた。白斑が蛍光灯の様だからであろう。名古屋東山周辺では、最も普通に見られるトンボである。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム

8-2 ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea*

観察・写真撮影：1♀ 20150711 千種区東山動植物園（写真8-2。加賀谷みえ子撮影）

全長17～21 mm。八丁トンボである。「八丁」は、本草学者、大河内存<sup>ぞんしん</sup>真（1796～1883）によって「矢田鉄砲場八丁目」（名古屋市内の矢田川付近）で発見されたことに因む。日



本の最小種で、世界的に見ても最も小さいトンボの一つである。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，台湾，中国，東南アジア，オセアニア

8-3 ショウジョウトンボ *Cocothemis servilia*

観察・写真撮影：♂♀ 20150524 千種区東山動植物園（写真8-3A：♂，B：♀。加賀谷みえ子撮影）

全長♂41～55 mm，♀38～50 mm。<sup>しょうじょう</sup>猩々トンボで，大酒家の赤ら顔を想像させる♂の真紅色に由来する。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国，東南アジア，アフリカ

8-4 ウスバキトンボ *Pantala flavescens*

観察・写真撮影：1 ex 20050922 千種区東山公園（写真8-4A）

標本：1 ex 20140911 千種区平和公園；1 ex 20171009 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（死骸）（写真8-4B，C：側面）（全長46～50 mm）

薄羽・黄トンボで，翅が薄くて透明度が高いことに由来する。成虫は春から秋にかけて日本全国各地で見られ，一時的な発生を繰り返すが，冬季に越冬できず死滅し，八重山諸島より北の地域での越冬は確認されていない<sup>1)</sup>。分布：日本，世界の熱帯・温帯地域。トンボの中で，最も分布域が広い種である。

8-5 ハラピロトンボ *Lyriotheis pachygastra*

観察・写真撮影：1♀ 20080503 昭和区八事本町興正寺（写真8-5A）；1♀ 20110519 千種区東山公園；1♀ 20180504 名東区猪高緑地（写真8-5B）

全長♂41～55 mm，♀38～50 mm。腹広トンボで，腹部が極端に太く扁平で短い。分布：日本，朝鮮半島，中国，極東ロシア

8-6 シオカラトンボ *Orthetrum albistylum*

観察・写真撮影：1♂ 20140911 千種区平和公園；1♀ 20150505 名東区猪高緑地；1♂ 20160728 千種区平和公園；1♂ 20190827 名東区牧野ヶ池緑地（写真8-6A）；1♀ 20210808 名東区藤巻町（写真8-6B）

標本：1♀ 198808 昭和区滝川町（死骸）（全長52 mm）

塩辛トンボである。成熟した♂の腹部は白粉で被われ，これを酒肴の塩辛に見立てたのであろう。一方，♀は淡黄色で黒色の斑紋を有し，<sup>むぎわら</sup>麦藁トンボと呼ばれる。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国，ロシア，ヨーロッパ

8-7 シオヤトンボ *Orthetrum japonicum*

観察・写真撮影：1♂（未成熟） 20170505 名東区猪高緑地（写真8-7）

全長♂40～49 mm，♀36～46 mm。塩屋トンボである。♂の白粉から，塩を売る人を想像したのであろうか。分布：日本（日本特産種）

8-8 オオシオカラトンボ *Orthetrum melania*

観察・写真撮影：1♀ 20030815 昭和区八事本町興正寺（写真8-8A）；1♀ 20100804

千種区東山公園；1♂ 20140911 千種区平和公園；1♂ 20150711 千種区東山動植物園（加賀谷みえ子撮影）；1♂ 20150816 名東区猪高緑地；1♂ 20160807 同地；1♂ 20160822 名東区牧野ヶ池緑地；1♂ 20170715 名東区猪高緑地（写真8-8B）；1♀ 20180817 千種区平和公園（写真8-8C）；1♀ 20190601 名東区猪高緑地

全長♂40～49 mm，♀36～46 mm。写真8-8Aは，シオヤアブ *Promachus yesonicus*（「塩屋」蛇である）に捕食されているところ。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国

## II チョウ（鱗翅）目 Order Lepidoptera

トンボ目と同様，チョウ目も愛好者が多く，『愛知県の昆虫(下)』では詳細に報告されている。チョウ目の大部分はガ（蛾）類であり，チョウとガの区別は人為的であるが，今回はチョウ類に限って報告する。

### 9 アゲハチョウ科 Family Papilionidae

アゲハチョウは「揚羽蝶」で，翅を高く持ち上げているように見えることに由来すると思われる。

#### 9-1 ジャコウアゲハ *Byasa alcinous*

観察・写真撮影：1♀ 20170803 千種区平和公園（写真9-1）

前翅長45～60 mm。<sup>じゃこう</sup>麝香アゲハで，♂が腹端からジャコウに似た匂いを出すことによる。食植物：ウマノスズクサ科。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，台湾，中国

#### 9-2 アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

観察・写真撮影：1 ex 20040715 名東区植園町；1 ex 20050925 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20080910 千種区東山公園；1 ex 20110507 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内；1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池緑地；6 ex 20130830 同地（写真9-2A：集団で吸水中）；1 ex 20170803 千種区平和公園（死骸）；1 ex 20190505 名東区猪高緑地（写真9-2B）

標本：1 ex 19930910 昭和区鶴舞町（前翅長49 mm）

青条アゲハである。吸水に訪れるのは♂が多いとのことである。子供のころには「水飲みアゲハ」の異名があった。食植物：クス科（タブノキ，クスノキ，ニッケイ，ヤブニッケイ等）。分布：日本，朝鮮半島南部，東洋熱帯，オーストラリア

#### 9-3 アゲハ *Papilio xuthus*

観察・写真撮影：1 ex 20020609 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20030906 同地；1 ex 20040424 同地；1 ex 20050917 千種区東山公園；1 ex 20060830 同地；1 ex 20110531 日進市香久山（写真9-3A）；1 ex 20150816 名東区猪高緑地；20150916 名東区藤巻町（写真9-3B）

前翅長40～60 mm。食植物：ミカン科（ミカン，カラタチ，サンショウ等）。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国，極東ロシア

9-4 キアゲハ *Papilio machaon*

観察・写真撮影：1 ex 20130525 千種区平和公園 (写真9-4)

前翅長40~60 mm。食植物：セリ科。分布：日本，旧北区，北アメリカ北部

9-5 ナガサキアゲハ *Papilio memnon*\*

観察・写真撮影：1♂ 20130830 名東区牧野ヶ池緑地；1♂ 20160829 名東区藤巻町 (写真9-5A)

標本：1♀ 20170730 千種区星が丘元町大学構内 (死骸) (前翅長74 mm) (写真9-5B)

長崎アゲハであり，江戸時代には，長崎周辺に分布が限局していたようである。『愛知県の昆虫(下)』発行時には未記録であったが，2001年以降，名古屋市市内でも観察されている。食植物：ミカン科。分布：本州 (西南部)・四国・九州，台湾，中国南部，東洋熱帯。南方系のチョウであるが，日本では分布を北に拡大しつつある。

9-6 モンキアゲハ *Papilio helenus*

観察・写真撮影：1♂ 20030901 名東区藤巻町 (写真9-6；吸水中。文献1) に報告済み)；1 ex 20070910 千種区東山公園；1 ex 20110604 同地；1 ex 20140926 名東区藤巻町

前翅長50~80 mm。紋黄アゲハである。食植物：ミカン科。分布：本州・四国・九州，台湾，中国南部，東洋熱帯。南方系のチョウであるが，日本では分布を北に拡大しつつある。

9-7 クロアゲハ *Papilio protenor*

観察・写真撮影：1 ex 20040701 名東区藤巻町；1 ex 20051010 昭和区南山町；1 ex 20080812 千種区東山公園；1 ex 20100814 千種区星が丘元町 (写真9-7)；1 ex 20150425 昭和区八事本町興正寺

前翅長50~73 mm。食植物：ミカン科。分布：本州・四国・九州，台湾，中国，ベトナム，ミャンマー，西北ヒマラヤ

9-8 カラスアゲハ *Papilio dehaanii*

観察・写真撮影：1 ex 20100827 千種区東山公園；1 ex 20180504 名東区猪高緑地 (写真9-8A)；1♂ 20210518 名東区藤巻町 (写真9-8B：吸水中)

前翅長40~65 mm。烏アゲハであるが，真黒ではない。食植物：ミカン科植物 (とくにコクサギ)。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部

10 シロチョウ科 Family Pieridae

御馴染みのモンシロチョウやモンキチョウが属する科である。

10-1 キタキチョウ *Eurena mandarina*

観察・写真撮影：1 ex 20041106 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20081102 同地；1 ex 20100404 同地；1 ex 20121027 千種区東山植物園 (写真10-1：羽化直後，脱皮殻に摺

まっている。加賀谷みえ子撮影)；1 ex 20181020 名東区猪高緑地

前翅長約24 mm。食植物：マメ科。成虫で越冬する。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島南部，中国中北部

## 11 シジミチョウ科 *Lycaenidae*

「小灰蝶」または「蛺蝶」である。小さな<sup>やから</sup>輩，あるいは貝のしじみのように小さいという意味であろうか。

### 11-1 ウラギンシジミ *Curetis acuta*

観察・写真撮影：1 ♀ 20050925 昭和区八事本町興正寺 (写真11-1)

前翅長約18 mm。裏銀シジミの名のように，裏面は白銀色である。食植物：マメ科植物 (クズ，フジ等)。分布：本州 (福島・新潟以西)・四国・九州，朝鮮半島，台湾，中国，インドシナ半島，インド

### 11-2 ムラサキシジミ *Narathura japonica*

観察・写真撮影：1 ex 20030329 昭和区八事本町興正寺 (越冬後の個体)；1 ♀ 20030830 同地 (写真11-2A)；1 ♂ 20041016 同地；1 ex 20070617 同地；1 ♀ 20080608 同地；1 ex 20080824 同地 (写真11-2B)；1 ex 20081005 同地；1 ♀ 20081207 同地；1 ex 20100320 同地 (越冬後の個体)；1 ex 20100404 同地 (越冬後の個体)；1 ♀ 20100701 千種区東山公園 (写真11-2C)；1 ex 20121014 昭和区八事本町興正寺；1 ♀ 20130830 名東区牧野ヶ池緑地；1 ex 20170715 名東区猪高緑地；1 ♀ 20190428 同地 (越冬後の個体)

前翅長約18 mm。食植物：ブナ科カシ類 (アラカシ，アカガシ，ウラジロガシ等)。成虫で越冬する。分布：本州西南部・四国・九州，朝鮮半島南部，台湾

### 11-3 アカシジミ *Japonica lutea*

観察・写真撮影：1 ex 20170520 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20180512 千種区平和公園 (写真11-3)；1 ex 20180527 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20200529 名東区藤巻町

前翅長約18 mm。長い尾状突起がある。食植物：ブナ科 (コナラ，クヌギ，カシワ，アラカシ，ウラジロガシ等)。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，ロシア南東部

### 11-4 ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

観察・写真撮影：1 ex 20030601 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20050604 同地；1 ex 20080525 同地；1 ex 20090524 同地；1 ex 20120602 天白区天白公園 (写真11-4)

前翅長約17 mm。水色尾長シジミである。アゲハのように長い尾状突起がある。食植物：ブナ科 (クヌギ等)。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，ロシア南東部

11-5 トラフシジミ *Rapala arata*

観察・写真撮影：1 ex 20040410 昭和区八事本町興正寺（写真11-5）

前翅長約18 mm。虎斑シジミである。裏面の紋様が虎の縞に似ていることに由来する。  
食植物：マメ科等。分布：日本，韓国，中国東北部，ロシア南東部

11-6 ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

観察・写真撮影：1 ex 20080729 千種区東山公園；1 ex 20100619 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20110827 同地；1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池緑地；1 ex 20120602 天白区天白公園；♂♀ 20120922 千種区平和公園（写真11-6A：交尾中）；1 ex 20140504 同地；1 ex 20160503 同地；1 ex 20181108 同地（写真11-6B）；1 ex 20190503 名東区牧野ヶ池緑地（写真11-6C）；1 ex 20200702 千種区東山公園

前翅長約16 mm。紅シジミである。食植物：タデ科（スイバ等）。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，シベリア，ヨーロッパ

11-7 ヤマトシジミ *Zizeeria maha*

観察・写真撮影：1 ex 20020929 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20041103 同地（写真11-7A）；1 ex 20051123 同地；1 ex 20071008 同地；1 ex 20080809 千種区東山公園（写真11-7B）；1 ex 20081103 昭和区八事本町興正寺（写真11-7C）；1 ex 20151025 同地

前翅長約13 mm。大和シジミである。11月下旬まで見られる。食植物：カタバミ科（カタバミ等）。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島南部，台湾，中国，フィリピン，ミャンマー，インド，イラン

11-8 ツバメシジミ *Everes argiades*

観察・写真撮影：1♀ 20130509 千種区平和公園（写真11-8A）；1♂ 20210815 名東区植園町（写真11-8B）

前翅長約14 mm。燕シジミである。後翅の尾状突起がツバメの尾を連想させたのであろう。食植物：マメ科。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国東北部，ユーラシア大陸北部

## 12 タテハチョウ科 Family Nymphalidae

立羽チョウである。チョウは一般に翅を立てて止まるので，タテハチョウに特有ではない。タテハチョウ類の他，イチモンジチョウ類，ヒョウモンチョウ類，ジャノメチョウ類，マダラチョウ類，テングチョウ類等，多様な種群を含んでいる。

12-1 テングチョウ *Libythea lepita*

観察・写真撮影：1 ex 20030524 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20040315 名東区藤巻町；1 ex 20040507 千種区東山公園；1 ex 20040515 昭和区滝川町；1 ex 20060325 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20080524 千種区東山公園；1 ex 20120829 同地；1 ex 20121008 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20180317 千種区東山公園（写真12-1A）；1 ex 20180527 昭和区八事本町興正寺（写真12-1B）

前翅長約25 mm。天狗チョウで、下顎鬚の発達によって頭端がテングの鼻のように長く突出しているのに由来する。3月から10月まで見られる。夏秋は休眠する個体もある<sup>2)</sup>。成虫で越冬する。食草：ニレ科（エノキ等）。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，台湾，中国，ヒマラヤ

12-2 ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

観察・写真撮影：1 ex 20030330 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20041010 同地（写真12-2A）；1 ex 20050310 小牧市小牧山；1 ex 20051009 昭和区八事本町興正寺（写真12-2B）；1 ex 20091103 同地

前翅長約30 mm。姫・赤タテハである。次種のアカタテハよりも「姫」，即ち「小さい」あるいは「可愛い」という意味である。3月から11月まで見られる。主に成虫で越冬する。食植物：ゴボウ，ヤマゴボウ等。分布：日本，世界全土（汎世界種）

12-3 アカタテハ *Vanessa indica*

観察・写真撮影：1 ex 20020923 昭和区八事本町興正寺（写真12-3）

前翅長約37 mm。成虫で越冬する。食植物：イラクサ等。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，インド

12-4 ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas*

観察・写真撮影：1 ex 20130413 千種区平和公園（写真12-4）

前翅長約37 mm。「<sup>ひおどし</sup>緋緋」チョウである。ヒオドシとは、鎧で緋色（深紅色）に染めた緋である。成虫で越冬する。食植物：ニレ科（エノキ等）。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，ヒマラヤ，ヨーロッパ

12-5 キタテハ *Polygonia c-aureum*

観察・写真撮影：1 ex 20100823 千種区東山公園（樹液に飛来。下方はサトキマダラヒカゲ）（写真12-5）

前翅長約27 mm。黄タテハである。後翅の裏面にはc字状の小紋様があり，種小名の*c-aureum*は，「金色のc」という意味だが，実際には黄白色である。同様にc字状の小模様を有する近似種シートテハ *Polygonia c-album* があり（名古屋には生息していない），こちらは「白色のc」という意味である。成虫で越冬する。食植物：クワ科（カナムグラ，カラハナソウ，アサ），イラクサ科（ホソバイラクサ）。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国，ベトナム

12-6 ルリタテハ *Kaniska canace*

観察・写真撮影：1 ex 20020810 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20020901 同地（写真12-6A：樹液に飛来。翅を立てて止まると，背景に紛れて見事な隠蔽擬態になる）；1 ex 20030712 同地；1 ex 20030810 同地；1 ex 20030823 同地；1 ex 20030907 同地（写真12-6B）；1 ex 20031108 同地；1 ex 20040812 同地；1 ex 20041010 同地；1 ex 20041103 同地；1 ex 20050626 同地；1 ex 20050731 同地；1 ex 20050925 同

地（写真12-6C：樹液に飛来）；1 ex 20051002 同地；1 ex 20051003 千種区東山公園；1 ex 20051009 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20060813 同地；1 ex 20060830 千種区東山公園；1 ex 20080323 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20080901 千種区東山公園；1 ex 20130413 千種区平和公園；1 ex 20150921 昭和区八事本町興正寺

前翅長約30 mm。瑠璃<sup>るり</sup>タテハである。3～11月頃まで、興正寺などの名古屋東山周辺で頻繁に観察され、しばしば樹液にやってくる。成虫で越冬する。食植物：サルトリイバラ等。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国東北部、フィリピン、インド

#### 12-7 ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

観察・写真撮影：1 ♀ 20031026 昭和区八事本町興正寺；1 ♂ 20050925 同地；1 ♂ 20051030 同地；1 ♀ 20060810 千種区東山公園；1 ♀ 20080427 昭和区八事本町興正寺；1 ♀ 20090830 同地；1 ♀ 20111008 同地；♂ ♀ 20120915 名東区牧野ヶ池緑地；♂ ♀ 20130418 千種区平和公園（写真12-7A：交尾中。左♂，右♀）；1 ♂ 20130525 同地；1 ♂ 20150505 名東区猪高緑地；1 ♂ 20181014 昭和区八事本町興正寺（写真12-7B）

標本：1 ♀ 19960923 緑区大高緑地公園（写真12-7C）（前翅長40 mm）

「棲黒豹紋」、即ち、前翅先端が黒い、豹のような文様のチョウという意味である。♀の前翅端には白色帯を伴う黒色部があるが、♂にはない。食植物：スミレ科。分布：本州西南部・四国・九州、朝鮮半島中南部、台湾、中国、東洋熱帯。南方系のチョウで、日本での分布域は北上を続けている。

#### 12-8 ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

観察・写真撮影：1 ex 20030810 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20050723 同地；1 ex 20060521 同地；1 ex 20080504 同地（写真12-8A：樹液に飛来）；1 ex 20110609 名東区猪高緑地

標本：1 ex 20160513 昭和区滝川町（死骸）（写真12-8B）（前翅長40 mm）

胡麻斑チョウである。樹液に飛来する。食植物：ニレ科（エノキ等）。分布：日本、朝鮮半島

#### 12-9 ホシミスジ *Neptis pryori*\*

観察・写真撮影：1 ex 20180603 名東区牧野ヶ池緑地（写真12-9）

前翅長約30 mm。「星三筋（または星三条）」である。前後に三条の白斑が筋状に並ぶミスジチョウ亜科の一種である。「星」は、後翅裏面にある11個の黒色斑点に由来する。『愛知県の昆虫(下)』には、名古屋市の記録はない。食草：バラ科（ユキヤナギ等）。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国東北部

#### 12-10 コミスジ *Neptis sappho*

標本：1 ex 19910428 守山区東谷山（写真12-10）（前翅長26 mm）

前翅長約27 mm。小ミスジである。ホシミスジやミスジチョウ（前翅長約34 mm）に比べて、小型である。食植物：マメ科。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国東北部、ヨ



ロッパ

12-11 コムラサキ *Apatura metis*

観察・写真撮影：1 ex 20071005 名東区藤巻町 (写真12-11A, B)

前翅長約36 mm。「小紫」である。「紫」は、♂の前翅が紫懸かることに由来する。「小」は、国蝶のオオムラサキに比べて小さいことから来ている。写真は♀と思われるが、方向によっては紫色懸かって見える。食植物：ヤナギ科植物。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，ロシア，ヨーロッパ

12-12 ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

観察・写真撮影：1 ex 20061009 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20080723 千種区東山公園；1 ex 20110803 同地；1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池緑地；1 ex 20120519 千種区平和公園；1 ex 20130428 名東区牧野ヶ池緑地；20150507 千種区平和公園；1 ex 20130525 同地；1 ex 20160503 同地；1 ex 20160828 同地；1 ex 20170514 同地 (写真12-12A)；♂♀ 20170715 名東区猪高緑地 (写真12-12B：交尾中)；1 ex 20180504 同地 (写真12-12C)；1 ex 20180512 千種区平和公園

前翅長約20 mm。「姫裏波蛇目」で、裏に波目模様がある，小さい，蛇の目チョウという意味である (別にウラナミジャノメという種がある)。食植物：イネ科。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国東北部，ロシア沿海州

12-13 ジャノメチョウ *Minois dryas*

観察・写真撮影：1 ex 20060803 千種区東山公園 (写真12-13)

前翅長32~40 mm。「蛇目蝶」で，ジャノメチョウ亜科の代表的な種であるが、『愛知県昆虫図』では，名古屋市周辺では著しく少なくなったとしている。食植物：イネ科 (ススキ等)。分布：日本，朝鮮半島，中国東北部，ユーラシア大陸北部，ヨーロッパ

12-14 クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

観察・写真撮影：1 ex 20031102 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20040810 千種区鹿子公園；1 ex 20050417 昭和区八事本町興正寺 (写真12-14A：越冬後。湿った地面から吸水中)；1 ex 20050909 千種区東山公園；1 ex 20050929 同地；1 ex 20060430 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20080503 同地；1 ex 20081027 千種区東山公園；1 ex 20091025 昭和区八事本町興正寺；1 ♀ 20170425 名東区藤巻町 (越冬後)；1 ex 20181014 昭和区八事本町興正寺

標本：1 ♀ (秋型) 20160404 千種区星が丘元町 (死骸) (加賀谷みえ子・一色忍採集) (写真12-14B) (前翅長41 mm)

「黒木間蝶<sup>コノマ</sup>」で，黒いコノマチョウである。日本のコノマチョウにはもう1種，南西諸島に生息するウスイロコノマチョウがいる。コノマの名の通り，暗い林内に生息する。年2化で第2化 (秋型) は成虫で越冬する。食植物：イネ科 (ススキ，ジュズダマ等)。分布：本州西南部・四国・九州，台湾，中国，マレー半島

12-15 サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*

観察・写真撮影：1 ex 20020901 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20030807 名東区藤巻町；1 ex 20030901 同地；1 ex 20040515 千種区東山公園；1 ex 20040821 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20050613 名東区藤巻町；1 ex 20060607 千種区東山公園；1 ex 20060811 同地；1 ex 20060825 名東区藤巻町（写真2-15A：樹液に飛来）；1 ex 20080907 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20100803 千種区東山公園；1 ex 20100920 昭和区八事本町興正寺（写真12-15B）；1 ex 20110609 名東区猪高緑地；1 ex 20110812 昭和区八事本町興正寺

前翅長約32 mm。しばしば樹液に飛来する。食植物：タケ・ササ類。分布：日本（固有種）

12-16 アサギマダラ *Parantica sita*

観察・写真撮影：1 ex 20041010 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20060921 千種区東山公園；1 ex 20071006 同地；1 ex 20080913 千種区東山植物園；1 ex 20110925 千種区東山公園；1 ex 20111003 同地；1 ex 20181020 名東区猪高緑地（写真12-16A）

標本：1 ex 19901001 昭和区鶴舞公園（写真12-16B）（前翅長61mm）

「浅葱斑」で、薄藍色のまだら模様という意味である。9～10月に見られる。長距離移動で有名な蝶である。日本国内での越冬可能な範囲は、西南日本から関東辺りまでである。食植物：ガガイモ科。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国南部、ヒマラヤ

13 セセリチョウ科 Family HesperIIDae

せせりちょう

「せせりちょう蝶」である。せわしく、落着きのない飛び方が、「拵る（くいつく、あさる）」ようであることから来ている。蛾のような雰囲気せせりちょうの蝶で、子供の頃は人気がなかった。

13-1 キマダラセセリ *Potanthus flavus*

観察・写真撮影：1 ex 20080819 千種区東山公園（写真13-1A）；1 ex 20110830 名東区藤巻町；1 ex 20120922 千種区平和公園；1 ex 20170715 名東区猪高緑地（写真13-1B）；1 ex 20180817 千種区平和公園

前翅長約13 mm。黄斑セセリである。食植物：イネ科（ススキ、エノコログサ等）。分布：日本、朝鮮半島、インドシナ半島、マレー半島

13-2 チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

観察・写真撮影：1 ex 20030607 昭和区八事本町興正寺（写真13-2A）；1 ex 20040523 同地；1 ex 20070909 同地；1 ex 20070915 千種区東山公園（写真13-2B）；1 ex 20120830 千種区平和公園；1 ex 20120915 名東区牧野ヶ池緑地

前翅長約12 mm。茶羽セセリである。食植物：イネ科（イネ、ススキ、エノコログサ等）。分布：本州・四国・九州、台湾、中国南部、東洋熱帯、オーストラリア

13-3 イチモンジセセリ *Parnara guttata*

観察・写真撮影：1 ex 20040822 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20050828 同地；1

ex 20080809 千種区東山公園 (写真13-3); 1 ex 20100903 名東区藤巻町; 1 ex 20120915 名東区牧野ヶ池緑地; 1 ex 20160822 同地

前翅長約20 mm。一文字セセリで、後翅裏面にある4つの白紋が一の字状に並んでいることに由来する。食植物：イネ科（イネ、ススキ、エノコログサ等）。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国

## ま と め

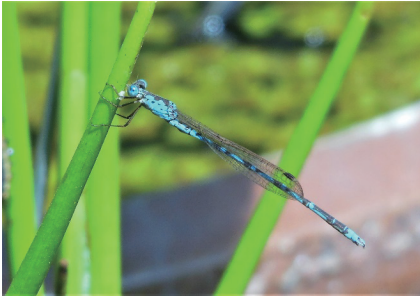
名古屋市東山周辺のトンボ目18種、チョウ目36種を報告した。別に、名古屋市に隣接する長久手市から、準絶滅危惧種のおぐマサナエを報告した。本報告には名東区猪高緑地での調査が含まれているが、最近、猪高緑地<sup>9)</sup>および、同じく名東区の明德公園<sup>10)</sup>での調査結果が報告された（明德公園は筆者の調査範囲に含まず）。名東区猪高緑地での調査目録（目録から読み取った期間：1978～2016年）では、トンボ目59種、チョウ目57種、明德公園（同：1970～2015年）からはトンボ目39種、チョウ目41種が報告された。今回報告した殆どの種は、これらの目録に含まれているが、目録に含まれていないものとして、猪高緑地：ハグロトンボ、ヒメウラナミジャノメ、明德公園：ハグロトンボ、キイトトンボ、アカシジミ、トラフシジミ、アカタテハ、ジャノメチョウがある。なお、おぐマサナエについては、猪高緑地1986年、明德公園1971年の古い記録が載っている。

## 文 献

- 1) 尾園暁・川島逸郎・二橋亮：日本のトンボ 文一総合出版 2012 (ISBN-13：978-4829901199)
- 2) 白水隆：日本産蝶類標準図鑑 学研プラス 2006 (ISBN-13：978-4052022968)
- 3) 黒沢良彦・日高敏隆編：原色昆虫百科図鑑 小学館 1967
- 4) 愛知県昆虫分布研究会：愛知県の昆虫(上) 愛知県 1990
- 5) 愛知県昆虫分布研究会：愛知県の昆虫(下) 愛知県 1991
- 6) 白田明正・岡田正哉・穂積俊文・安藤尚・蟹江昇：なごやの昆虫 名古屋昆虫館 1989
- 7) 環境省レッドリスト2020 <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>
- 8) 内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相 I. 概論 椋山女学園大学研究論集（自然科学篇）2007; 38: 137-149 (URL: <http://id.nii.ac.jp/1454/00001331/>)
- 9) 高崎保郎：名古屋市名東区猪高緑地の蜻蛉と蝶 なごやの生物多様性 2017; 4: 89-106
- 10) 高崎保郎：名古屋市名東区明德公園の蜻蛉と蝶 なごやの生物多様性 2016; 3: 43-53

名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

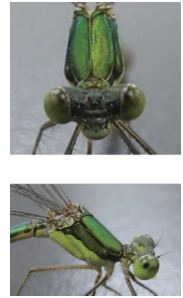
1-1



1-2A



1-2B



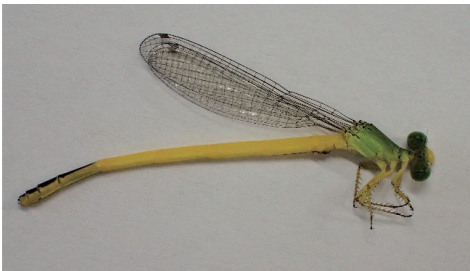
2-1A



2-1B



3-1A



3-1B



3-2A



3-2B



3-3A



3-3B





4-1A



4-2A



4-1B



4-2B



4-2D



4-2C



5-1A



5-1B



4-3



名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

6-1A



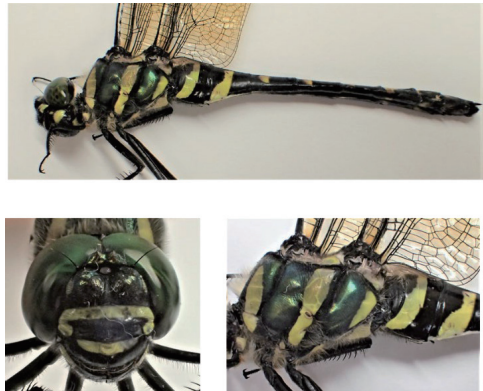
6-1B



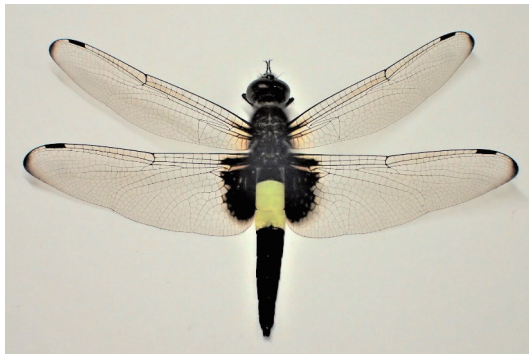
7-1A



7-1B



8-1A



8-1B





8-2



8-3A



8-3B



8-4A



8-4B



8-4C



8-5A



8-5B



8-6A



8-6B





名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

8-7



8-8A



8-8B



8-8C



9-1



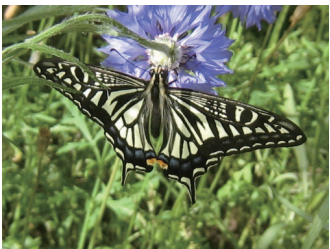
9-2A



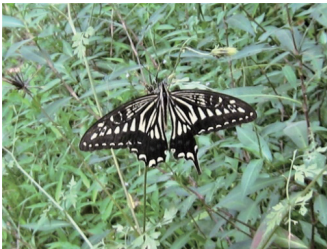
9-2B



9-3A



9-3B



9-4



9-5A



9-5B



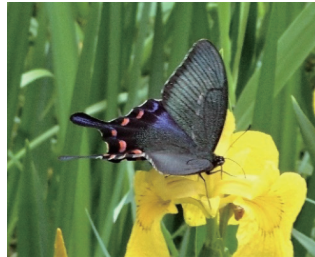
9-6



9-7



9-8A



9-8B



10-1



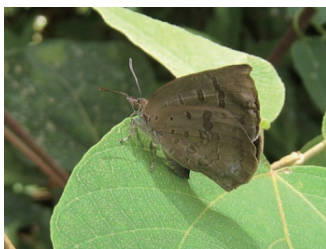
11-1



11-2A



11-2B



11-2C





名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

11-3



11-4



11-5



11-6A



11-6B



11-6C



11-7A



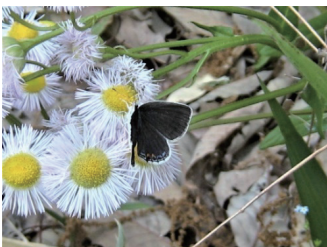
11-7B



11-7C



11-8A



11-8B



12-1A



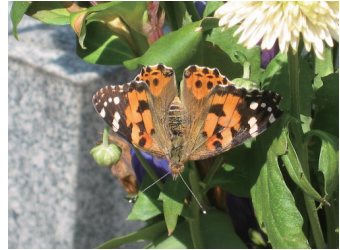
12-1B



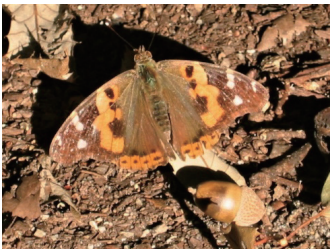
12-2A



12-2B



12-3



12-4



12-5



12-6A



12-6B



12-6C



12-7A



12-7B



12-7C





名古屋東山周辺の昆虫相 IV. その他

12-8A



12-8B



12-9



12-10



12-11A



12-11B



12-12A



12-12B



12-12C



12-13



12-14A



12-14B



12-15A



12-15B



12-16A



12-16B



13-1A



13-1B



13-2A



13-2B



13-3

